

報道関係者各位

2025 年 6月10日

【大阪・関西万博 2025】ペルー共和国、テーマウィークイベント「ラテンアメリカとカリブ海のコーヒーとカカオをひとくち」に参加、自国のコーヒーとカカオの魅力を発信



大阪・関西万博「食と暮らしの未来ウィーク」初日の6月5日(木)、特別イベント「ラテンアメリカとカリブ海のコーヒーとカカオをひとくち」が開催され、ペルー共和国は、ボリビア多民族国家、ドミニカ共和国、パナマ共和国と共に参加、「雇用創出におけるコーヒーとカカオの役割」、「女性のエンパワーメント」、「循環型経済における副産物の再利用」などをテーマにしたラウンドテーブルディスカッションおよびテイスティングを通じて、自国のコーヒーおよびカカオの魅力やそれを支える持続可能な取り組みを紹介しました。

ペルー政府代表 ダニエル・カベロは、「ペルーは、アラビカ種 100%の高品質なコーヒーの産地として知られており、28の気候帯と39の生態系を有する豊かな自然環境の中で、標高1,200～2,300メートルの高地にて栽培が行われています。生産の95%以上は小規模農家によって担われており、フェアトレードやオーガニック認証の取得を通じて国際市場との接点を広げています」と発表しました。

カカオは、ペルーにおいて非常に重要な役割を担っています。近年の研究により、ペルーのアマゾン地域では5,300年以上前からカカオが認識され、栽培・利用されていたことが明らかになりました。さらに、儀式的な用途としても用いられていたことが確認されています。こうした研究成果は、ペルーが世界最古のカカオ原産地の一つであることを裏付けるものです。

さらに「Coffee from Peru」ブランドの活動や、オーガニックを超えたバイオダイナミック農法を取り入れる「Chakra D' Dago (チャクラ・ディ・ダーゴ)」の事例を紹介。在来樹木の再生、排水の

管理、太陽光発電の活用など、再生型農業に取り組みや、同農園が2025年のSCA(スペシャルティコーヒー協会)サステナブル・アワードのファイナリストに選ばれていることを説明すると、多くの関心が集まりました。

また、当日、カハマルカ地域で栽培されたアラビカ種コーヒー200杯と、同国のカカオを使用したチョコレート100個を一般来場者に提供。長蛇の列ができ、瞬く間に配布を終えるほどの盛況ぶりでした。



同イベントは、「食と暮らしの未来ウィーク」最終日の6月16日(月)にも行われ、ベリーズ、コロンビア共和国、キューバ共和国、グアテマラ共和国が参加する予定です。
イベント概要は以下の通りです。

【イベント概要】

■イベント名: ラテンアメリカとカリブ海のコーヒーとカカオをひとくち

■開催日:

第1回: 2025年6月5日(木) 14:30~16:30

■会場: 大阪・関西万博会場 Common-C 中央ステージ

■主催: 「食と暮らしの未来ウィーク」テーマウィーク事務局

■参加国:

・6月5日: ボリビア多民族国家、ドミニカ共和国、パナマ共和国、ペルー共和国

■詳細 URL: <https://theme-weeks.expo2025.or.jp/program/detail/683a7545d27ef.html>

本件に関するお問い合わせ: ペルー館広報事務局 担当: 柳、坂口、佐藤

TEL: 045-900-6854 / E-mail: press@peru-expo-2025-osaka.info